

# しづおか社会福祉事業 共済会だより

## 第1号

発行日 平成14年4月30日

編集・発行 財団法人静岡県社会福祉事業共済会

### 会員に皆様へ

会長 椎田 實

平成14年度のスタートにあたり一言ご挨拶を申し上げます。去る3月の理事会、評議員会におきまして平成14年度の事業計画及び収支予算が承認され、併せて任期満了に伴う役員改選が行われ、新体制のもと、気持ちを新たにして事業運営に取り組んでまいる所存であります。

今年は共済会が発足して満35年になりますが、これまで共済会の記録を綴ったもののがなく、この機会に歴代の役職員の皆様が情熱を傾けて築き上げてくれた歴史を収録し、次世代の人達に引き継ぐ必要があろうと考え、現在記念誌「35年のあゆみ」の編集作業に取り組んでおります。

ご承知のとおり共済会の当初方針では、基金を造成し、その果実をもって職員の待遇改善に充てていく考えであり、基金目標額10億円を想定し会員負担金を当初1,000の22と高く徴収し、また、県をはじめ市町村、民間団体等から多額の財政支援を仰ぎ、平成2年には、その目標額が達成され、高金利時代にも恵まれて、退職金、慶弔金等の給付事業は円滑に行われ、かつ資金状況も順調に行われてまいりました。

しかし、バブルの崩壊以来、長引く不況によって預本金利が大幅に引き下げられ、基金から生じる果実では、給付金を賄うことは早晩困難な情勢になってきております。また、一方、職員の待遇改善への取り組みがおろそかになってきたため、他府県の待遇に比べてかなり遅れをとるなど、厳しい状況におかれしており、早急にこれらの対応策を図るため、青野副会長を委員長に理事、評議員等で構成する検討委員会を設置し、既に数回にわたり協議を重ね、その改善策作りに取り組んでいるところであります。

このように、共済会にとっては大きな転換期を迎えており、役職員一同、長期的な視点にたって誤りなきよう諸施策の推進を図り、共済会の健全な発展に努めてまいる所存であります。

なお、これまで中断されておりました「共済会だより」を復活し、共済会の活動状況を掲載して、会員皆様のご理解を願うとともに、ご意見、ご提言等を積極的にお寄せいただき、共済会の運営に供してまいりたいと思いますのでよろしくお願ひ申し上げます。

## 理事・評議員(役員)の改選

任期満了に伴い理事、評議員が次のとおり選任された。(任期 H14.4.1~H16.3.31)

### <理事>

会長	椅田 實	学識経験者
副会長	青野 淳芳	県保育所連合会 会長
副会長	八谷 祐司	(福) 明和会 理事長
副会長	戸巻 芙美夫	県児童養護施設 協議会会长
理事	大塚 則義	県健康福祉部 医療福祉統括監
理事	小嶋 善吉	県市長会会長
理事	池田 藤平	県町村会会長
理事	吉川 雄二	県議会環境厚生委 員会委員長
理事	仲亜透	県老人福祉施設協 議会会长
理事	山内 令子	県社会就労センタ ー協議会会长
理事	林 靖隆	県身体障害児者施 設協議会会长
理事	杉山 明喜雄	公認会計士

### <監事>

土屋 敏	県町村会事務局長
杉山 哲男	(福) 信愛会 理事長

### <評議員>

内藤 順敬	(福) 芙蓉会 みどり園施設長
鈴木 理	(福) 草笛の会 理事長
梶浦 琢磨	(福) 瑞陵会 理事長
竹村 秀彦	(福) 三幸会 理事長
鈴木 美行	県健康福祉部 地域福祉室長
鈴木 充	" 介護保険室長
大河内 熙子	" こども家庭室長
河合 太吉	" 障害者プラン推進室長

## 平成14年度事業計画・収支予算が決定

平成14年3月26日に開催した理事会及び評議員会において審議の結果、平成14年度事業計画及び収支予算が次のとおり承認された。

### 1 事業計画

- (1) 退職手当及び慶弔金等給付事業の迅速な処理に努める。
- (2) 共済制度の改正と新制度への移行について円滑な促進に努める。
- (3) 共済事業のあり方について検討を引き続き行い、早期に見直しを行い事業の健全な発展に努める。
- (4) 共済会設立35周年事業として、記念誌を発行する。

- (5) 会員の理解と支援を得るため、「共済会だより」を随時発刊し、情報の提供に努める。
- (6) 新規加入法人及び新設施設を対象に、共済制度全般にわたる説明会並びに共済制度の改正等に伴う研修会を随時開催し、理解と協力を得るよう努める。

## 収支予算

(収入の部)

(単位:千円)

科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	説 明
負担金収入	220,000	181,500	38,500	法人納付金@100
寄付金収入	2,000	5,000	▲3,000	浜名湖競艇事業団
利息収入	27,000	26,200	800	利率 1.5%
繰越金収入	3,000	7,000	▲4,000	
計	252,000	219,700	32,300	

(支出の部)

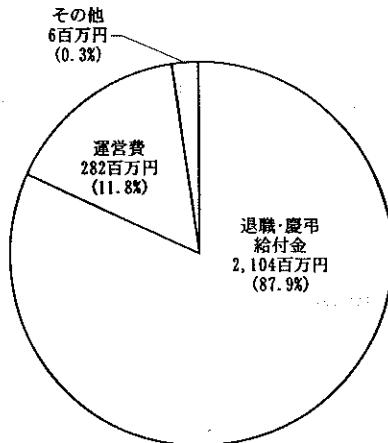
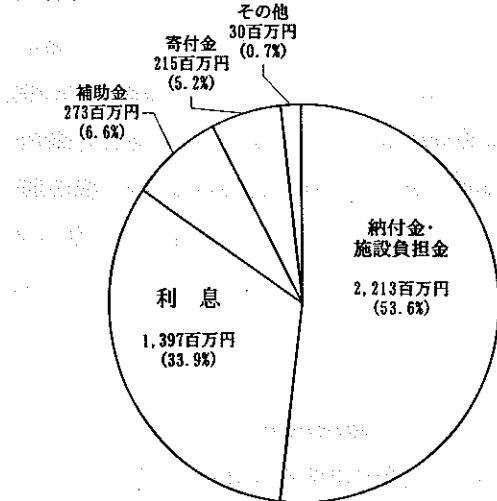
科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	説 明
運営費	17,400	15,890	1,510	記念誌発行費、コンサルタント手数料、事務委託費、会議費他
事業費	155,400	126,900	28,500	退職給付金、慶弔給付金
積立金	76,200	73,910	2,290	
予備費	3,000	3,000	0	
計	252,000	219,700	32,300	

## 共済会の収支状況

昭和 43 年の設立から平成 12 年度末までの収支状況は次のとおりである。

収 入

支 出



資産積立金 1,736 百万円

## **検討委員会の設置**

長引く不況の中で預金金利が大幅に引き下げられ、給付財源に大きな支障をきたし、また職員の処遇が他府県に比べて著しく遅れをとる等、負担金、給付金等の制度の見直しが急務となっている。このため、平成 12 年 5 月開催の理事会及び評議員会の承認を得て検討委員会を設置し、これまでに 8 回の検討委員会を開催、既に、①加入対象職員の範囲の拡大、②新規加入法人に対する負担金を既存法人と同率に引き上げ、③負担金算定の基準となる職員給与の上限を定める等の改正を実現し、現在も引き続き次の検討課題について協議を重ねている。

### <検討項目>

- 1 法人等の加入納付金及び施設負担金のあり方について
- 2 退職手当給付金及び慶弔等給付金のあり方について
- 3 加入職員の年齢制限について
- 4 事務局体制の強化について

## **専門機関(コンサルタント)に負担金、給付金の積算について業務委託**

負担金は利息収入の大幅減少により、また、退職手当給付金は他府県との均衡上その見直しが必要となっており、これが適正な積算基準を作るにはかなりの高度な専門知識が求められるので、専門機関(コンサルタント)に委託してその作業を進めている。

## **記念誌の発刊**

民間社会福祉施設職員の処遇向上を図るため、昭和 43 年に本共済会が設立され、今年で 35 周年を迎えるにあたり、諸先輩方が築いてくれた歴史を収録し、次世代の人たちに引き継いでいくことが必要であると考え、理事会及び評議員会の承認を得てこのたび発刊することとした。

この共済会の事務局も度重なる移転により資料が散逸し、また当時の関係者も少なくなってきたため、編集に困難が予測されたが、幸い設立発起人の一人である平野正臣元県民生部長をはじめ、数人の方々から当時の苦労話などを聞くことができ、また、多くの施設から保存されている古い資料を提供していただくなど、編集に見通しがたったため、出来る限り早い時期に発刊するよう現在編集作業に取り組んでいる。

## **《編集後記》**

平成 14 年度事業の柱でもある情報提供の一つとして、このたび機関紙第 1 号を発刊することになった。機関紙の内容については、今後一層の充実を図り、会員の方々に愛され親しまれる紙面作りに心掛けていく所存であるので、今後も御支援と御協力をお願いいたします。